

平成21年度



海外派遣研修 募集要項

～フィリピン実践手法スタディコース～



(写真:フィリピン 植林に向かう子どもたち)

- 期間：平成21年11/30(月)～12/13(日)[全14日間]
- 募集人数：6名
- 締切日：平成21年9月7日(月)必着
- 参加費(航空運賃・滞在費込み)：50,000円

主催・問い合わせ先：
独立行政法人環境再生保全機構
地球環境基金
担当:赤井・藤井
Tel: 044-520-9505
E-mail: c-kikin@erca.go.jp
URL: <http://www.erca.go.jp/jfge>

協力：
財団法人オイスカ

**平成 21 年度地球環境基金
海外派遣研修募集要項
フィリピン実践手法スタディコース**

独立行政法人環境再生保全機構（以下「環境再生保全機構」という）では、「海外派遣研修（フィリピン実践手法スタディコース）」の研修生を下記の要領で募集いたします。

■募集要項目次■

1	研修の狙い	P 1	1 0	その他	P 4
2	研修実施国とその選定理由	P 1	1 1	研修先及び日程	P 5
3	研修日程及び募集人数	P 2	様式①	申込書兼推薦状	P 8
4	応募資格	P 2	様式②	履歴書	P 9
5	応募方法及び申込み締切日	P 2	様式③	小論文	P 1 0
6	研修者の決定・通知	P 3	様式④	団体概要書	P 1 1
7	研修の中止	P 3	様式⑤	保護者同意書	P 1 2
8	事前研修及び研修報告会	P 3		研修予定地地図	P 1 3
9	研修経費	P 3		お問い合わせ先	裏表紙

1 研修の狙い

地球環境を保全していく上で大きな課題の一つに、開発途上地域の環境問題の深刻化があります。開発途上地域では開発事業が行われることに伴う環境への影響が懸念されています。また、財源・技術・人材等が不足しており、政府レベルの支援だけでなく、NGO 活動を通じた民間レベルでの国際環境協力にも大きな期待が寄せられています。

本研修は、既に国際環境協力を実施、あるいは取り組みを予定している環境 NGO の活動に参加している方を対象に、応募団体からの推薦により応募していただきます。研修では、開発途上地域における環境問題の現状とその原因や、現地 NGO 等の環境問題への取り組みについて学び、NGO 相互間で共通課題などの討議等を行います。これにより、国際協力について高い意識を持った NGO の担い手を育てることを目的としています。

2 研修実施国とその選定理由

研修実施国のフィリピン共和国（以下「フィリピン」という）は、大小あわせて 7,000 以上の島々からなる島嶼国家であり、地域によってさまざまな自然環境を持つ国です。近年は安定した経済成長を続けており観光旅行先としても人気が高い反面、依然として貧困率は高く、開発に伴って環境破壊や環境汚染が進むなど多くの課題も抱えています。特に環境破壊の面では、1960 年代からの大規模な商業目的の森林伐採により、2000 年までに国内の森林率は 20%以下にまで減少してしまいました。また、最近では乾期にも多量の雨が降るなど異常気象が続き、気候変動の影響も懸念されています。

一方で、フィリピンは開発途上国の中の NGO 先進国ともいわれるほど NGO の数が多く、環境問題に取り組む NGO も数多く存在します。これらの NGO は民間、国際機関、他国の NGO、フィリピン政府機関などと連携しながら、環境保全のための活動を続けています。また最近では、将来の環境破壊を防ぐための取り組みとして、環境教育や環境保全型の社会づくりなども注目されています。

本研修では、フィリピンにおいて環境保全や環境教育を実施している現地 NGO 等の活動現場の視察、およびスタッフや地域住民、関係機関職員等との意見交換を行います。研修を通じて得られるアジアの環境問題の歴史的・社会的背景と現状、それに対する NGO の取り組みや他機関との連携などに関する知見は、参加者が帰国後、環境保全分野における国際協力を進めていく上で大いに役立つものと考えられます。

3 研修日程及び募集人数

研修日程（予定）	コースの概要	募集人数
（事前研修） 平成21年10月28日（水）、 29日（木）	環境再生保全機構において、事前研修を行います。	6名
（現地研修） 平成21年11月30日（月） ～12月13日（日）	フィリピンの各地で環境教育に重点を置いて活動に取り組む諸団体を訪問し、活動現場の視察、スタッフや地域住民との意見交換・交流等を通じて、現地の状況、開発と環境保全、国際協力等について学びます。	
（研修報告会） 現地研修終了後に実施いたします。	帰国後、環境再生保全機構において、研修の報告会を行います。	

※全体の行程管理のため、財団法人オイスカ及び環境再生保全機構の職員が同行いたします。

4 応募資格

次の要件を満たす者としてします。

- （1） 所属している環境NGOが国際的な環境保全活動の実績を有するNGO、または今後国際的な環境保全活動を予定しているNGOであること。
- （2） （1）に所属し一定の活動歴を有する者で、団体からの推薦が得られること。専属職員だけでなく、ボランティアやインターン等として関わっている方でも構いません。但し、イベント等での単発的なボランティア参加は除きます。
- （3） 過去に環境再生保全機構が主催する海外派遣研修に参加していないこと。
- （4） 研修に必要な英会話能力を有すること。現地組織においての説明及び質疑応答が英語で行われる場合があります。
- （5） 環境問題の基礎的な知識と所属団体の活動分野における相応の知識を有すること。
- （6） 心身ともに健康であること。
- （7） 日本語でのコミュニケーションに支障がないこと。
- （8） 18歳以上であること。（未成年の方は保護者の同意が必要です。）
- （9） 一時的な短期滞在者でないこと。（注）
（注）短期滞在者とは、外国人登録をしていない者、過去1年間日本に滞在していない者、1年以内に日本を離れる可能性がある者としてします。
- （10） 事前研修、現地研修、研修報告会の全てに参加できること。

5 応募方法及び申込み締切日

- （1） 応募方法
所属団体より必要書類の提出を郵送でお願いします。個人での応募は、受け付けておりません。
- （2） 締切日 **平成21年9月7日（月）必着**
- （3） 提出書類 *様式は環境再生保全機構地球環境基金部のホームページからダウンロードできます。 URL：<http://www.erca.go.jp/jfge/training/h21/haken.html>
 様式① 申込書兼推薦状 P 8
 様式② 履歴書 P 9……6ヶ月以内に撮影した上半身無帽の写真（寸法4.5cm×3.5cm裏面に氏名を記入）を貼付して下さい。
 様式③ 小論文 P 10……応募の動機、本研修で得たいこと、本研修を今後の活動にどのように活かすかについて1ページ程度にまとめて下さい。
 様式④ 団体概要書 P 11
 様式⑤ 保護者同意書 P 12……未成年者は保護者の同意書を添付して下さい。

(4) 提出書類送付先及び問い合わせ先

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課 (担当：赤井、藤井)

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310番

ミューザ川崎セントラルタワー8階

TEL 044-520-9505

FAX 044-520-2190

E-mail c-kikin@erca.go.jp

URL <http://www.erca.go.jp/jfge>

- ※ 応募書類の返却はいたしませんので、予めご了承下さい。
- ※ 頂いた個人情報本選考の目的以外に利用することはありません。

6 研修者の決定・通知

提出された書類をもとに、下記の点を考慮して審査し、研修者を選抜します。選考結果は、平成21年9月16日を目途に所属団体に通知します。

- (1) 所属している環境 NGO が既に開発途上地域における環境保全活動を実施しているか、またはどの程度具体的に活動を予定しているか。
- (2) 環境 NGO においてどの程度の活動歴を有しているか。
- (3) 今後、我が国の環境 NGO において、国内外の環境保全活動を積極的に推進していく強い意志があるか。
- (4) 環境問題の基礎的な知識と活動分野における相応の知識を有しているか。

7 研修の中止

適格者が4名に満たない場合や、派遣先地域の治安状況や災害等により実施が難しくなった場合は、この研修を中止することがあります。

8 事前研修及び研修報告会について

現地研修のみならず、事前研修及び研修報告会(3 研修日程及び募集人数参照)にも必ず参加していただくことが必要です。

9 研修経費

研修参加費は5万円です。

上記以外の研修に必要な経費(航空運賃、滞在費等。事前研修、研修報告会に関する経費を含む。)は、環境再生保全機構が負担します。ただし、次の経費は研修参加者の負担とします。

- ア. 渡航手続書類等作成代行料金(パスポート取得等)
- イ. 食事、飲み物に関する料金
- ウ. 個人的性格の費用(クリーニング代、TEL代、娯楽費等)
- エ. 超過手荷物運搬料金
- オ. 傷害、疾病に関する医療費
- カ. 任意の海外旅行傷害保険料
- キ. 予防注射接種費

※研修参加費は返金できませんので、予めご了承下さい。

10 その他

- (1) 現地研修終了後、1ヶ月以内に研修レポートを提出していただきます。

※過年度の研修レポートは環境再生保全機構地球環境基金部のホームページで閲覧可能です。

- (2) 環境再生保全機構は、研修生全員の海外旅行損害保険に加入します。研修中の不慮の事故等による損害の環境再生保全機構の補償は、以下の範囲に限られます。

傷害	死亡	5000万円	治療	800万円
疾病	死亡	3000万円	治療	800万円
賠償責任	5000万円			
携行品	50万円			
救援者	600万円			

1.1 研修先及び日程

(1) 研修先：フィリピン

(2) 日程

(都合により変更する場合があります)

月日	訪問先および研修内容	活動内容	宿泊地
11月 30日 (月)	成田(09:30)→マニラ(1310) 《PAL 431 便》	移動	マニラ
12月 1日(火)	マニラ→ヌエバビスカヤ 《車: 7hr》	移動	ヌエバ ビスカヤ
	○オイスカ・ヌエバビスカヤ植林プロジェクト フィリピンの森林破壊の背景と現状/環境教育の意義について	視察・ 意見交換	
2日(水)	○オイスカ「子供の森」計画 現地小学校・高校での環境教育現場視察/生徒・教師・ 教育省職員へのインタビュー	視察・ 意見交換	イフガオ
	ヌエバビスカヤ→イフガオ 《車: 3.5hr》	移動	
3日(木) ~4日 (金)	○Save the Ifugao Terraces Movement (SITMo) 棚田保全の取組みと現状/住民参加の促進/環境教育を 取り入れた環境保全プロジェクトの立案	講義・ 意見交換	イフガオ
5日(土)	イフガオ→ヌエバエシハ 《車: 5hr》	移動	マニラ
	○ピンティグカピアオ・エコレッジ 環境保全型コミュニティづくり/地域住民の意識向上/ NGO 間の連携について	視察・ 意見交換	
	ヌエバエシハ→マニラ 《車: 4hr》	移動	
6日(日)	○休息・研修前半のまとめ		マニラ
7日(月)	マニラ→カパロンガ 《車: 8hr》	移動	カパロンガ
	○オイスカ・マングローブ植林プロジェクト 沿岸地域の環境破壊の背景と現状・保全活動/地域住民 の参加促進・意識向上の取組み	意見交換	
8日(火)	○オイスカ「子供の森」計画 地域の自然環境に適した環境教育手法の実践	視察・ 意見交換	ロスバニョ ス
	カパロンガ→ロスバニョス 《車: 5hr》	移動	
9日(水)	○ Training Center for Tropical Resources and Ecosystems Sustainability (TREES) マキリン山森林保護区の環境保全における環境教育の意 義と手法	講義	ロスバニョ ス
10日 (木)	○ Training Center for Tropical Resources and Ecosystems Sustainability (TREES) 環境保全活動における問題解決手法(ログフレーム手法 を利用し、参加者自身が関わる環境保全活動の問題分析 と解決策立案)	ワーク ショップ	マニラ
	ロスバニョス→マニラ 《車: 3hr》	移動	
11日 (金)	○フィリピン環境天然資源省森林管理局、JICA フィリピン 事務所、ADB マニラ事務所など 環境保全・環境教育分野での NGO と政府・国際機関等 との連携について意見交換	意見交換	マニラ

12日 (土)	○休息、研修のまとめ・振り返り		マニラ
13日 (日)	マニラ(14:30)→成田(19:55) 《PAL 432 便》	帰国	

※研修中は毎夕 1 時間ほど、その日の研修内容の振り返りの時間を設ける。

(3) 研修・視察訪問先の概要

訪問先の概要は次のとおりです。(訪問日程順)

オイスカ・ヌエバビスカヤ植林プロジェクト【ルソン島ヌエバビスカヤ州】

プロジェクト地は中部ルソン最大のマガット・ダムの水源地にあたる山地で、フィリピン政府から流域森林保全地区として指定を受けている。しかし過剰な商業伐採が進んだ結果、土壌が流出して岩盤がむき出しになっており、植林が急務とされてきた。1992年に地元住民が植林活動を開始し、これまでに造成された約 500ha の植林地では動植物が増えたほか、水の供給量が年間を通じて安定するようになり、ふもとの村での農業の安定につながっている。また地域の子どもや住民を対象とした環境キャンプの開催地としても活用されている。

「子供の森」計画【ルソン島ヌエバビスカヤ州および北カマリネス州カパロンガ】

オイスカでは 1991 年から、学校単位で子どもたち自身が木を植え育てていく「子供の森」計画を実施しており、これまでにフィリピンを含む 26 の国・地域で 4000 近い学校が参加している。学校の敷地や周辺の土地への植林のほか、ネイチャーゲームや自然観察などの環境教育、環境保全や地球温暖化などに関する講義、有機農業等の環境保全型技術の指導などさまざまな活動を実施している。また子どもたちだけでなくその親や地域住民などを巻き込むことで、学校から地域全体へ、環境保護の活動と意識を普及させている。

Save the Ifugao Terraces Movement (SITMo)【ルソン島イフガオ州】

フィリピン最大の NGO・Philippine Rural Reconstruction Movement (PRRM) のイフガオ支局が 2000 年に独立し、設立した NGO。ユネスコの世界遺産にも指定されているイフガオの棚田保全のため、コミュニティーベースの土地利用計画、農村開発、棚田の保護・管理などを包括的なアプローチから実施している。日本からも JICA を通じた草の根技術協力事業や NGO による支援が行われているほか、世界各国・国際機関からも高い注目と評価を受けている。

(URL: <http://sitmo.ueuo.com/html/ifugao Terraces.htm>)

ピンティグカビアオ・エコビレッジ (Pintig Cabiao Ecovillage)【ルソン島ヌエバエシハ州】

「お互いが支えあう社会づくり」「環境に負荷の少ない暮らし方」を目指すエコビレッジは、未来志向型の新たなコミュニティのあり方として注目を集めており、1998年には国連による持続可能なライフスタイル 100 選 (100 listing of Best Practice) の一つに選ばれている。同エコビレッジは、パーマカルチャーの理念とデザインを取り入れ、環境と共生した持続可能なライフスタイル、地産地消による自給自足的な生活を目指して 2008年に設立された。フィリピン国内で環境保全や環境教育、パーマカルチャー、アドボカシー運動などそれぞれ異なるアプローチを実践している 3つの NGO 団体が協力して設立したという点でも特徴的。(URL: <http://www.happyearth.info/awards.php>)

オイスカ・マングローブ植林プロジェクト【ルソン島北カマリネス州】

住民組織を中心とした地域住民・環境天然資源省・オイスカの三者が連携し、マングローブ植林を実施している。植林のほか、地域住民への環境教育として、環境破壊やマングローブの効用などに関する講義も行っている。それにより、違法な漁などマングローブを破壊する行為をしなくなっただけでなく、自発的に植林地のパトロールに出たりマングローブを守るためのルールを作るなど、地域住民が組織化され、環境保全意識が広まっている。

Training Center for Tropical Resources and Ecosystems Sustainability (TREES)【ルソン島ラグーナ州】

マキリン山森林保護区は、フィリピン大学ロスバニョス校の管理下に置かれている一方で保護区内には居住者もいるなど、複雑な状況の下で管理されている。フィリピン大学ロスバニョス校の森林自然資源学部内にある Training Center for Tropical Resources and Ecosystem Sustainability では、研究者・地域住民・政府機関・民間企業などさまざまな関係者を巻き込んだ形での森林資源の回復・保全と持続的利用に取り組んでいる。

フィリピン環境天然資源省森林管理局

環境天然資源省（DENR : Department of Environment and Natural Resources）はフィリピンの環境保全の担当省庁である。また、オイスカをはじめとするさまざまな NGO との連携の下、環境保全に取り組んでいる。

平成21年度地球環境基金

海外派遣研修（フィリピン実践手法スタディコース）申込書 兼 推薦状

独立行政法人環境再生保全機構

理事長 湊 亮策 殿

住 所

団体名

代表者

印

平成21年度地球環境基金海外派遣研修（フィリピン実践手法スタディコース）の参加者として資質を備えていると思われるため、下記の者を推薦するとともに、関係書類を添えて申し込みます。

記

氏 名：

所 属 形 態：①役職員（職名： ）（在職年数： ） ②インターン（在職年数： ）
③ボランティア（活動年数または回数： ） ④その他（ ）

所 属 期 間：

主な担当業務：

- 関 係 書 類：
- 1 本人履歴書
 - 2 本人小論文
 - 3 団体概要
 - 4 保護者同意書（本人が未成年者の場合）

以上

履 歴 書

下記のとおり相違ありません。

平成 年 月 日

写 真

4.5cmX3.5cm

6ヶ月以内撮影

無帽上半身

(裏面に名前を記入して

下さい)

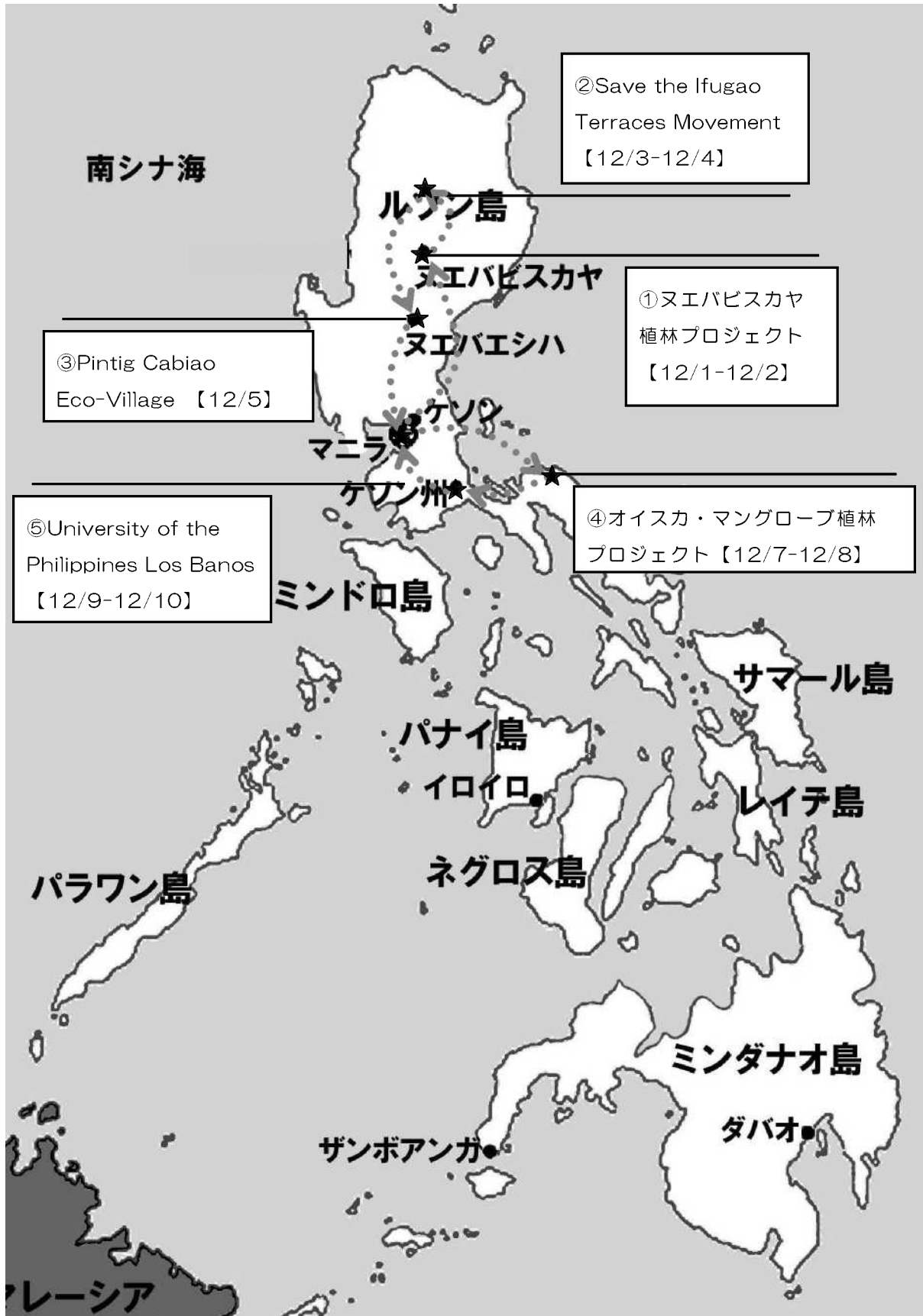
氏 名	ふりがな		男		
	印		女		
ローマ字	(姓) (名)				
生年月日	西暦19 年 月 日生 (年齢 満 歳)				
現住所	ふりがな				
	〒 電話番号 携帯電話 FAX. E-mail				
国内緊急連絡先	ふりがな				
	〒 電話番号 FAX.				
健康状態	ふりがな		本人との関係		
	連絡者				
最終学歴・職歴	良好・普通・治療中	既往症	治療中の疾患		
	年 月	最終学歴(学校・学部・学科名) ※在学中も含む	年 月	職歴	
NGO・ボランティア活動歴	開始年月	終了年月	所属団体名	活動内容	
これまでに参加した海外研修(スタディーツアーを含む)					
研修名		実施団体名	研修地	研修期間	
語学力	英会話能力	A:会議での討議にほとんど不自由しない程度 B:会議での討議がある程度可能 C:会議等の内容がおおむね理解できる D:日常会話にそれほど困らない程度 E:ほとんどできない		英検 級	TOEFL 点
	A B C D E			TOEIC 点	その他
特種技能	(その資格名)				
研修日程	事前研修、現地研修、研修報告会の全てに参加できますか?			参加できる ・ 一部参加できない	
その他	本研修をどこで知りましたか? (具体的に:)				
	パスポートをお持ちですか? 無 / 有 (有効期限: 年 月)				

団 体 概 要 書

平成 年 月 日

団体名			代表者					
			設立年月	年 月 設立（法人化 年 月）				
主たる事務所の所在地	〒 TEL FAX E-mail							
連絡先	9月7日（月）～9月16日（水）上記連絡先に連絡がつかますか？ 『いいえ』の場合の連絡先 担当者氏名：		<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ 電話番号 携帯電話 FAX E-mail					
活動地域								
主な活動内容	平成18年度	平成19年度	平成20年度					
財政規模	総収入	千円	千円	千円				
	総支出	千円	千円	千円				
スタッフ	常勤：	名	非常勤：	名	ボランティア：	名		
会員数	個人会員	名	年会費	千円	団体会員	名	年会費	千円
今後の海外活動計画								
担当者	所属／役職				氏名			

研修予定地地図





(写真:フィリピン 環境教育授業)

お問い合わせ先

独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課(担当:赤井・藤井)
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー8F
TEL:044-520-9505
FAX:044-520-2190 午前 9:30 から午後 6:00 まで (土曜日、日曜日、祝日を除く)
E-mail:c-kikin@erca.go.jp
URL:http://www.erca.go.jp/jfge

地球環境基金は、国内外の民間団体(NGO・NPO)が行う環境保全活動への資金の助成、人材育成、情報提供等の支援を行っています。

実施協力

財団法人オイスカ(担当:齊藤)
〒168-0063 東京都杉並区和泉 3-6-12
TEL:03-3322-5161 FAX:03-3324-7111
URL:http://www.oisca.org